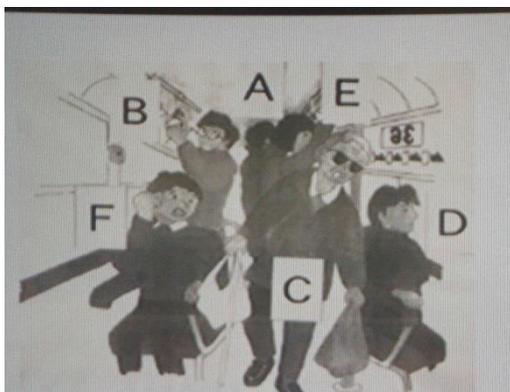


『する』を許さず 『される』を責めず 傍観者なし

市内の6年生は2学期に「人権」をテーマにした学習に取り組む学校が多いです。丹波市では約10年前より市内6年生が地域ごとに一堂に会して人権について考える機会を持つ『人権交流集会』を開催しています。今回、人権学習のスタートとして「市島地域6年生人権講演会」を開催し、元小学校教員の堂本さんを講師に「身につけよう差別を見抜き行動する力～みんなが幸せに生きるために～」と題してオンラインで講演いただきました。

講演では、左のバスの中のイラストを基に「悪いのは誰かランキングしてください」との講師の方からの問いに子どもたちは一生懸命考えていました。



- A: 関心がなく「困っている人」がいることに気づかない人
- B: 「困っている人」に気づき、どうしようか迷っている人
- C: 困っている人
- D: 「困っている人」を無視する人
- E: 「困っている人」に気づきながらも、かかわりたくないと思っている人
- F: 「困っている人」に行動を起こせない人



子どもたちの話し合いを聞いていると、Cの目が不自由で困っている人は悪くないと考えているのは全員一緒でした。「Eの関わりたくないと思っている人が一番悪いと思う」「Bの気づいたけれど、どうしようかと迷っ

ている人の気持ちは分かる」など、自分事として捉えたり、共感しながら話し合ったりする 6 年生の姿に成長を感じました。中でも A の「関心がなく困っている人に気がつかない人」については、子どもたちの中で意見が割れているようでした。

講師の方からは、「『困っている人』と書いてあるところをみんなにとってもっと身近な話題、例えば『いじめ』に代えて読んでみるとどうだろうか」そして更に A について「クラスで起きているいじめに関心が無いという人のことをみんなはどう思う」と考えさせられました。

### いじめなど差別問題を考える三原則

『する』を許さず 『される』を責めず 傍観者なし

その際、上記の三原則を示して、「傍観者（関わろうとしない人、参画しようとしていない人）をなくすことがいじめなど差別をなくすことにつながると思いませんか」との話を子どもたちは考えながら聞いていました。

講師先生の話在市島地域の 6 年生がともに学んだことも大変有意義でした。これから各学校で人権について調べ学習や現地見学・講話などを通して学びを深めていきます。竹田小では 6 年生の学びを保護者・地域の方々・在校生に伝える機会があればと考えています。